

【2020 年度開講】 京都ミュージアム PBL 科目新規募集概要

1. はじめに

本財団では「京都ならではの新たな学びの拡充」を目標に掲げ、文化都市の利点を活かし京都地域の学生教育の更なる充実に向け京都ミュージアム PBL 科目の開設を進めてまいりました。

この度、下記のとおり実習や課題提供などご協力頂きます文化施設が決まりましたので、科目開設大学の募集を行います。原則として、プラザ推奨科目と同様の取扱いとなりますが、以下のとおり科目開設に係る概要をお知らせいたします。多くの協定校様よりご応募頂きたく存じますので学内の周知等についてご協力の程宜しくお願いいたします。

○京都ミュージアム PBL 科目とは

大学コンソーシアム京都と京都市の協働により単位互換科目において PBL やグループワーク等のアクティブラーニング型の科目を実施する枠組みをコーディネートし、それを大学の正規の科目として提供頂き、京都の各文化施設と連携して授業を実施するものである。

2. 申請期限

2019 年 9 月 28 日（土） ※(プラザ推奨科目申請期限)

申請書類：「京都ミュージアム PBL 科目」新規開設申請書

3. 協力文化施設

- ・ 京都鉄道博物館
- ・ 京都国際マンガミュージアム
- ・ 京都市動物園
- ・ 京都市京セラ美術館



4. 科目開設大学募集方法

○新規科目申請に係る取扱いについては、原則としてプラザ推奨科目と同様の手続きにより行うものとするが、初年度であることから今後については以下のとおり予定している。

- ①【7月12日(金)】第1回単位互換・京カレッジ事務担当者会議
- ②【7月中旬～8月下旬】科目開設相談期間（希望大学との個別相談）
- ③【8月下旬～9月上旬】科目開設説明会（問い合わせ多数の場合は説明会を実施）
- ④【9月28日(土)】新規 PBL 科目申請書類提出〆切

※申請書類については別紙のとおり京都世界遺産 PBL 科目と同様の様式とする。

- ⑤【10月～11月】文化施設と希望大学とのマッチング作業

※大学コンソーシアム京都が仲介となりマッチングを行う。

- ⑥【12月下旬～1月上旬】シラバス作成

5. ガイドライン・各種補助金

科目開設にあたり、本財団では、ガイドライン記載の支給基準に基づいて、円滑な科目運営をサポートするため科目開設大学へ科目運営補助金と活動支援補助金を支給する。

- (1) ガイドラインおよび補助金の取扱いについては、京都世界遺産 PBL 科目と同様に「プラザ推奨科目に関するガイドライン」に準拠するものとする。
- (2) プラザ推奨科目としての取扱いは当面 3 年までとする。本財団の判断により 4 年目以降、更新する場合がある。
- (3) 科目運営をサポートする補助金の支給について（京都世界遺産 PBL 科目と同様の基準）

科目運営補助金	10 万円 (2 万円追加可)	大学へ支給：TA 経費等
活動支援補助金	7 万円	教員へ支給：消耗品等

6. 科目の基本的枠組み

- (1) 大学の正規科目として開設すること。
- (2) 講義定員は、原則 5～20 名とし、自大学生と単位互換履修生（原則 3 割以上が望ましい）に限る。京カレッジ生（一般の生涯学習生）は含まない。
- (3) 原則としてキャンパスプラザ京都を会場とすること（プラザ科目となる）。
 - ① プラザ科目の場合、会場費（教材提示装置等機器使用料を含む）は、本財団が負担する。
 - ② 使用機器などについては、事前申請を必要とする。
- (4) 原則として同一大学、同一科目名称で 1～3 年間開設すること。
 - ① 原則として 3 年間継続する。
 - ② 科目を 3 年間設置することができないと予め判明している場合は、申請書にその旨記載する。
- (5) 原則として単年度ごとに完結するプロジェクトとすること。
- (6) 授業パターン

授業回数（90 分授業）	単位数	受講人数
半期（前・後期）・夏季集中：15 回相当	2 単位	5～20 名程度
通年：30 回相当	4 単位	5～20 名程度

- (7) 共通講義日程

共通講義	実施時期	コマ数	備考
全体講義	5 月中旬	2 コマ分	合同の基本講義
成果発表会	12 月中旬	2 コマ分	合同の成果発表
各種トレーニング（任意）	インタビュー：5 月	1 コマ分	外部講師
	プレゼンテーション：10 月	1 コマ分	外部講師

※共通講義を「授業」として 1 コマと位置付けるか否かは科目担当者の判断となる。

※共通講義以外の授業日程については科目担当者により設定する。

- (8) 授業形態を考慮し、受講学生は所属大学において災害障害保険及び賠償責任保険に加入し、科目開設大学は加入の確認に特に留意すること。

7. 科目設計コンセプト

担当教員は、ファシリテートをすることによって、以下の教育コンセプトが促進されるよう授業運営を行う。

(1) 解のない課題と向き合い、解決に向けた方向性を探る

学生が受入れ先とのコミュニケーションやインタビュー等の中から文化施設が持つ課題を確認し、その課題解決に向けた検証を行い、活動から学んだことを発表します。

※解決策の提示を目指す、決して成果を求めるのではなく、活動の中で学んだことを学生どうしで深め、成長につなげることを重視する。

(2) インターカレッジによる多様な学びを深める

所属大学以外の学生と接することにより、社会と同様、多様な考え方、価値観等に触れ、交流させることで個々の学生の成長拡大につなげ、学生の学びと成長を促す。

(3) 課題解決に取り組み、京都（ミュージアム）の新たな魅力を発見する

京都の文化施設に関わるフィールドでの活動を通じて解決策を提示することを通して、今後の京都（ミュージアム）の新たな魅力を発見することを目指す。

8. 関係機関の役割

(1) 各文化施設

- ・授業で施設を利用する際の入場協力
- ・施設側授業担当者の設定
- ・課題設定に関する教員との打ち合わせ及び学生インタビューへの協力
- ・会議室など施設内で授業やミーティングをする際の場所の貸与
- ・施設での取組みの説明など学生ガイダンスの実施

(2) 大学コンソーシアム京都

- ・科目開設大学との申請等手続き調整
- ・PBL 科目活動補助金の担当教員への振込、科目運営補助金の法人への支給
- ・科目開設に向けた教室手配や PBL 科目の周知・広報
- ・京都市と連携し、文化施設側との調整

(3) 京都市

- ・文化施設側との調整
- ・全体講義時に京都市から講師を派遣するなど枠組みへの協力
- ・PBL 科目の広報協力

(4) 科目担当教員

- ・科目開設のための学内手続
- ・シラバス作成
- ・講義の実施
- ・科目運営補助金の執行
- ・成績判定

(5) 科目開設大学

- ・科目開設 ※学則に定める科目として開設することが前提となります。
- ・科目運営補助金（ゲストスピーカー等の給金・謝金）の支出
- ・受講学生の災害障害保険・賠償責任保険の加入確認
- ・委託契約の締結（必要あれば）
- ・プラザ推奨科目補助金の財団への申請
- ・担当講師への出講案内
- ・学生に対する各種教務連絡（休講、補講、教室変更、試験・レポート情報等）
- ・e 京都ラーニングを通じた休講情報等の公開

9. 文化施設からのテーマ・課題

京都鉄道博物館

・「外国の方に楽しんでいただくためには、どうしたらいい？」

近年、当館ではアジア圏をはじめ、外国からのお客様を多くお迎えしています。オリンピックや万博を控え、今後外国の方により多くご来館いただくために、また外国の方にも不便のない施設にするために、より有効と考えられる展示や取り組みを考えています。

・「地域に密着した取り組みを考えてみよう！」

「地域と歩む鉄道文化拠点」を基本コンセプトにする当館では、地域に密着して活動し、地元・京都をはじめ、たくさんの方にファンになっていただくことも大切な目的のひとつです。鉄道をテーマにした博物館は他の地域にもありますが、「京都にある鉄道博物館」だからこそ出来る展示や取り組みを考えています。

・「どんな博物館ならリピーターが増える？」

当館は2020年で開館5年目を迎えますが、長期的・継続的に多くのお客様にご来館いただくために、今後は既にご来館いただいた方にリピーターになっていただくことが大切になってきます。またぜひ来館したい！家族や友人を誘ってもう一度来たい！と思っていただくために、効果的と考えられる展示や取り組みを考えています。

京都国際マンガミュージアム

外国人観光客がより満足できる施設づくりや日本のマンガについて理解を深めるための情報発信方法を考えてほしい

世代や国籍を超えて楽しむことができる、マンガに関するワークショップのメニュー開発について提案してほしい

マンガ関連資料のアーカイブとその活用の方法について、若者の柔軟な発想で提案してほしい

京都市動物園

・大学生のチカラで京都市動物園の可能性を広げる企画提案

動物園には、貴重な野生動物だけでなく、植物や水路・田んぼなどの環境教育資源、さらに岡崎地区という文化ゾーンに立地していることなど、多様なリソースがある。大学生の視点と感性を活かして、若者が参加したくなる企画を提案してほしい。

・入園者アップのためのイベントの企画提案

動物園の主たる来園者層は小学生以下の子どもを含むファミリー層である。とくに、入園者数が落ち込む夏季と冬季に、動物園に来たくなるようなイベント企画を立案してください。採用した企画を実施し評価するところまでを課題とします。

・「京都市動物園＋α」コラボレーション企画提案

外部の企業または団体とのコラボレーションにより、京都市動物園の新しい可能性を打ち出す。企画立案から企業・団体との交渉、企画の運営までを京都市動物園とともに進めることを課題の範囲とする。

京都市京セラ美術館

「京都のミュージアムが学びのフィールド」をテーマにした、ミュージアムにおける子供向けラーニングプログラムの開発

「京都のミュージアムが学びのフィールド」をテーマにした、居住外国人・インバウンド外国人観光客などを含めた国際相互理解や国際交流を目的とした鑑賞・ラーニングプログラムの開発

※京都市京セラ美術館における2020年度の開講期については、前期は不可とし、後期または夏季集中を予定。

2021年度以降の開講期については、2020年度の状況により要検討。